

語り手 大原寿美子さん
(明治40年生まれ)

昭和62年8月23日収録

あらすじ

昔、正直なおじいさんとおばあさんがいた。おじいさんが山へ畑打ちに行くのでおばあさんがにぎり飯をしてやった。

昼飯を食べようと風呂敷をほどこいたら、むすびが転ぶのでついて降りたら、お地藏さんの前へむすびが止まった。おじいさんは泥のついたところは自分が食べ、つかんところを供え「お地藏さん、あがりませ」とお地藏さんにあげた。

お地藏さんが「おみゃえは感心なじいじゃ。わしの膝へ上げれ」「もっ

地藏浄土

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

むすび供え鬼の銭もらろう

「頭に上げれ」。肩に上がったら言われた。本当に赤鬼や青鬼が来 あさんが風呂に入りに来

「頭に上げれ」。よう 本当に赤鬼や青鬼が来 あさんが風呂に入りに来

上がりません」「正直なて、銭をまいて丁半をしたから、話したそつな。隣の自在かぎに鼻がひっ
じいさんじゃ、上げれ」。だした。おじいさんが笠 次の日、隣のおばあさ
お地藏さんの頭に乗った をカサカサ音をさせた かかって、どつしように
たら、「にぎり飯をくれ ら、鬼たちは「鶏じゃ。 も動かないものだから
たお札に笠あ一つやる、 夜が明けた。いなにゃ。 さんはずにもならないの と鬼たちを呼びもどし
鬼がきて、銭めえて丁半 と帰ってしまつた。「ほ に、むすびを穴に落とす、 た。おじいさんはつい、
うびにお金をやる」 おじいさんがもどつた ぐりこませて、泥だらけ ました。
晩に隣のじいさんとおば になつて下りた。 「鶏のまねをしたのは、
お地藏さんがおられた このくそじいじゃ」と、

解説

から「腹がへつたろう。 鬼たちはおじいさんを捕 おにぎり、お地藏さんも まえとでもひどい目にあ 食べんさえ」。泥だらけ わしたので、おじいさん のところを供え、よいと は、どこも血だらけにな ころだけ、自分が食べた。 り、手足も血だらけにな 隣のおじいさんはお地 っ、もどつたと。だか 蔵さんが言われないのに ら欲ばりはするものでは お地藏さんの膝、肩、頭 ないよ。 そればつちり。
へ笠を持って上がってい ると、青鬼やら赤鬼やら 出てくるから、笠をカサ カサさせ「ケッコー……」 関敬吾『日本昔話大成』
と言つたら、「夜が明け の話型では本格昔話「地 た」と、鬼が逃げてしま 蔵浄土」になる。

おじいさんは、銭がみの 豊かな語りを楽しんで 帰ろうと思つたら、一 いたきたい。
人、逃げ遅れた鬼が、近 (元鳥取短期大学教授)
(水曜日に掲載)